

2021年12月12日（日）の財務管理部長・寺澤勇少佐のメッセージ

ルカ2：10-12「アメージング・グレイス」

街の装いも新たになり、一年でも心躍るクリスマスの季節となりました。「アメージング・グレイス」という歌を皆さんご存じだと思います。「驚くべき恵み」と日本語では訳せません。この12月、救世軍では社会鍋の季節ですが、社会鍋でもこの曲は良く奏でられます。神様の驚くべき恵みで救われた私たちが、さらに多くの人を助けたいという思いで街頭に立っています。救世軍の社会鍋を通して、弱い立場の方々に「驚くべき恵み」が与えられることを願うものです。街頭で社会鍋を見かけましたら是非、協力していただければと思います。

さて、夏目漱石はその著書「虞美人草」の中で、「人間は驚くうちが楽しみがある」と言っています。確かに毎日の生活の中に子どものような新鮮な驚きがあったら、生活それ自身が日々楽しいものだろうと思います。クリスマスをワクワクしながら待ち望む子どものような心で過ごせたらそれは楽しいでしょう。コロナ禍になりまして、外出する機会がめっぽう減った日常の中で、驚きということ自体、なくなってしまったかのように感じます。しかし、聖書は、「たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。」(2コリ4:16)と伝道者パウロの言葉を通して言っています。神の恵みに対する驚き、感動が日々新しくあれば、その人は衰えることがないでしょう。

聖書は驚きそのものです。「神が人となった」と聖書は記しています。救い主イエスさまが人としてお生まれになりました。これだけでも大変な驚きです。そのお方が私たちの罪の身代わりとして十字架で死なれた。そのようなことを誰が思うでしょう。まったく考えられないような驚くべき出来事です。そしてそのお方は、死からよみがえられ、今も生きておられるというのですから、驚かすにはおれません。神が人となった出来事をクリスマス、十字架の死からよみがえられた出来事をイースターと私たちは言っています。聖書はまさに驚きの連続です。子どものようにならなければ神の国を見ることはできないとはそういうことかとも思うのです。

このクリスマスの時、街の喧騒に心奪われるのではなく、むしろ静まって、聖書のみことばに心を向けられたら、「人間は驚くうちが幸せだ」を体験することができると思います。

作家の大江健三郎さんが、新聞で次のようなコラムを書いておられました。「私の長男は、障害をもって生まれた。偶然の事故にひどいものに自分と家族の人生がすっかり影響づけられるのはどういうことかと若い時は疑いもした。それでいて息子を救うことを中心に置く暮らしを続けてきたが、二十五年たってみると、私の文学のみならず、生きてきての

一番重要なことは、子どもと共生した苦しみや喜びのうちにつちかわれたのだ。」

お子さんが障害をもって生まれ、一時は人生を疑ったこともありましたが、その苦しみや喜びによってつちかわれた人生であったと振り返っておられます。そして、英語の「グレイス」という言葉を解説しながら、次のように付け加えています。「グレイスという言葉には、恩寵という意味に重ねて、魂の美質、上品さ、感謝の祈りという意味もある。・・・障害のある子どもに導かれて現実を超えた何ものかにふれる気がする。それが私を深いところで支えていると思う。障害の子を持つ家族の生活は困難のくり返しである。乗り越えても乗り越えても、また乗り越えなければならぬ困難がやってくる。しかし、それが現実には密着する力も現実を乗り越える力も、ともに与えるのだ。これは死ぬまで続くことだろうし、私のパーソナリティの中でそれを統合していくことを学びたいと思う。」

苦難の連続であったとしてもその苦難が今の自分を造り上げているとするならば、それはグレイス、恩寵、感謝の祈りとなるということです。聖書によると、神の方から先行して人類を愛し、救いの道を示し、祝福を与えるということが明言されています。神のご本質が、愛そのものだからだと証しているのです。聖書には次のようにあります。「わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」(2 コリ 4:17)

こう言っている伝道者パウロは「一時の軽い艱難」とひとことで言っていますが、彼自身もひとことで言い表せないような自分の肉体的な障害に悩み、取り除いてくださいと神に祈りましたが、その祈りは聞かれませんでした。しかし、そのハンディがあることで、弱さを自覚し、謙虚に神に信頼し、その先にある永遠へと目を向けるのです。

神は私たちもこのアメージング・グレイス、驚くべき恵みに招いてくださっています。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」(2 コリ 4:18) これも聖書の御言葉です。

このクリスマスの時、神の恵みの中に生かされている自分というものを見つめ直してみたいと思うのです。聖書の示す本当のクリスマスを見つけてほしいのです。救い主イエスキリストは私たちのためにお生まれになりました。見えないものに目を注ぐ、そんな信仰をもって、このクリスマスを待ち望む時を過ごせたら幸いです。わたしたち全員に神様からの驚くべき恵みが与えられています。その聖書の御言葉を読んでお祈りさせていただきます。

「天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」(ルカ 2:10-12)